

---

# ポーカーフェイス

枝豆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポーカーフェイス

### 【Nコード】

N0377B

### 【作者名】

枝豆

### 【あらすじ】

無口な彼に話しかけても無視無視無視。トラウマになってしまった彼女。校庭を走る彼の姿をいつも見ていた彼女。今日はいつもと違う彼の姿を見ることができた。

「はあ、今日も離しかけることができなかった。」  
誰も居なくなつた教室で、ポツリと呟く。

「こんな私、嫌い。」

独り言のはずなのに、なぜか空しく木霊する。

片思いして、どのくらい経つたんだろうか。

この期間で、彼と交わした言葉は数えられるほど。

他の女の子の呼びかけには反応するのに。

私が勇気を出して声をかけても、無視。

無視、無視、無視。

なんか、とつても悲しくなつて

声をかけることが、軽いトラウマになりつつある今日この頃です。

「はあ。」

今まで何回ついただろう、彼を思つてつくため息。

私の目は、いつも彼を追っている。

今だって、そうだ。

陸上部で、長距離の選手の彼はグルグル、校庭を走っている。

真剣な表情である一点だけを見て走る、彼のその姿が好きで、

いつも、気がつかないうちに何十分も彼を見ている。

そんな事をしている私に気付いたとき、恥ずかしい様なちょっと嬉

しいような、不思議な感情になる。

そして、顔を埋めていつも口にする言葉。

「なんて、恥ずかしいことしてるんだろう……。」

この一言で、さらに恥ずかしさが増してゆく。

ふと彼のほうを見ると、彼もこっちを見ていた。  
視線がぶつかり合う。

どっかで聞いたことがある気がするが、

時が止まったように、一瞬が永遠に感じた。

私は、ずっと見ていたかった。

でも、話すことができない私にとってそれはとっても大変なことだった。

私は、自分の足を見ていた。

何分か過ぎ頼の火照りが冷めたころ、私は走り続ける彼の姿をみた。  
ほんのり頬が赤くなっていて、こっちを見ている。

明日、話しかけてみよう。

大きな声で、はっきりと。

朝の挨拶からはじめてみよう。

私は、頬たたき気合を入れた。

（後書き）

軽く、実話です。

今私がしている恋もこんな感じです。

片思いをしている方・恋を成就させた方、ぜひ感想や評価をください。

お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0377b/>

---

ポーカーフェイス

2010年10月13日16時24分発行